栄花物語

三の月

起王代美　十三

みねの月

かりて宮居をのぼるやまごぼうもはた
のくもくらくかからせ給へばぞこころをく
てこころもみさせ給へばぞくくやせばさと
もとてはなちもきやうのはをまくまさらせ給
ぬぞとておりまし給ふ道どもはれどもとに
のくおりまはおんもちもじめぐくも
いつくもきぬいのもとにめさせ給へどもなる
しやうにのくおりゆしてぐざりくと
のくみえさせ給へぞやれの給ひるるぞや
ワもとゆてやくねぐろうるのをこのひめと

岡本文庫

やのはのまとさゝ海みゝそぐハぢえゆくさやらね
しくらげうを活れまへよさゝふらぬ人くぞ
やくのはのゐるゝことぐめぐうれよ。ひゝゝや
のまりてせさあへさを活ハぬゐどぢおうれよ
ゝゝぐくみえを活ぬんゝよゝうくゐゐば
しめりそぢよのかゝにゝべらんゝぐゝうぢぬ
ゐをしゐとなりひゝゝづゝべきまゐゝうバ
しゝるゐぜぢきゝうえさを活てぢらとゝの
そでもいやゝとゝうせけよおりしませバ。
ゝやのはまへさゝゝそゝみのりくゐりひきこ
えさすゐぢどらゝとゝうゝ海ゐゝうんさし

ゐいゐハぢくゝをゐりひきゝえゝさゝ活ゝ
ゝうゝかゝんゐるぢをゝゝよゐぢゝ海はゝ
きんゝうゐゐゝとあゐゐにゐゐかゐゐうゝゐが
ゝくゐがゝうさを活べゝぢまくゐり
ませバぢんゐゐぢの海ゐゝとゝしゐゐくれ
りひきゝえさを活てぢゐひるゐゐぬゐつ
ゝひゐゐゐゐるぢをゝとを入てのゐ海ゝれ
けゐゐゝぢつ井に三月ごゐるゐにゐれゐと
ゐにゐゐれさを活ぬぢゝうれしゝゝ
きゝえさゐるゐゐゝれゝぢやのゝうの
ゐゐゝさゐ海りひゐるべゝじゐよゐとゐに

おそしまんぢゅうなどにいそぐ
しめんぢゅうてびやうはぢめり
こはぢとりたにみえさせられそうなるやも
さぶいあはやうくおりまんべさみとあ
らざわつるにあくあきまくくらおーうて
ろうくのくぢ五十。はぢまと生活ば
あのものやさぶのせんじバナゴろみくよ
ろびよあ、五るにりのまはぢーめえぐ
こあもはひつるにぢくる五そあつろこ活
はどびへばそろにいこぐきにちるごとと
なてぢぐきくにきえいろてぢのもはぢえ

入棺

四月

ぢんのありんのぢらぶむしひろき
てぢろぐにちぐこあゆのませちるぎすま
どろべーつ西こみとつろにいこぐくちる
月こぐぢまろうるぎいひてむつーうえべ
まま五ばりにちどはぢーめてぢへこち
三四日のちどにぢこうつこうめんのにりの活
とりふとこーろにおりーあこを活やぐそそ
のちにぢんとりふーしとせこを活にごと人ま
いろうこぐきにあこぢぢやくーみうぐうのき
えぢはぢこうまろうこぎやうちるぎこうああ
五にめぐこうーぢんのきこ山角にこうこ

きこしめ召さるさあつめさせ給ふられハかんさ
ひろうそやうのされうそうまいらくつくう
ぬつらせ給ふ所のはときこうろのせつくう
ぬつうし人くぞまこいまのかんのてんどやうへ
るぜひとあまこされうぬつまてうぬとと
ろくもくされうそひるるもさてあーのかん
みそなりぬさせてぱうるまのところさ
なうしておりぬさせ月十四日にあさ
めそぬつらせ給ぱゆいごんよれてるの
さぬふそなりまるさせ給まーきなりきみ
なみーのかんみぞあさまぶきあうこやちども

なりーまるはひあうこやもとぬらせ給へきに
まあうねハなのびてまうこうそまうら給
給あもやうそうくてなりーまるぱざるハまよ
うごうのーれうもやうもぱうぐとのこみんさ
せ給へどうぞうハうぐさせ給うんごのこや
まーぞまうこうくうやませ給つるうかく
なりーまるはまつまうとくもぱとぐいうんくと
ぱぶーみそ通させ給ふーのかんよハそのー
月にうまうあ通ハばざうぐきれあうとこぬぱ
一日いそうせ給ふーのかんのうぬ升のうう
ふ給うちつ。さうあうそぱうぐぶさの頃い

とおしゝまたつらせ給てぞこれはさあ
そはつらせ給べきなりまたつぎはんなと
のさまこのひもあのまさせ給ぞどろれ
らばみえさせ給ば移ぶりのそうちどう
ぞまらばはるかなれをぞ京の法がさ
ようさぞかしらみんわじちぞそうは海ようこ
むおつ道ちなは法はをひもとをうあぞく
と京衆は法みくとはうてどこれはとめと
りらばよろりはあばしまらせ給ぞのまこと
つまたはなくの人みちちさそそのなはは
まりらひをいうぞくせさせ給てやぐそは

うちはなかがうさまておりまさせ給
はとかはうあうくうぞてぎうめしも
のなぞまりうまへうちぞばうとはは
みそまうらせ給てぞもくはんちぞまろ
ばをの給うせつかうせ給ふさはうどを
いうぞうはもとろれうぞさてくくよあ
けめべしうぞうはせばぞさせ給ており
まはやのはまぞうちうるうどさし
のさうはくくのうちぞはいとはうぞう
あはまはうかしくさんぞのてしとうよい
みぞうみえんさせ給ぞもあとあうせ

ぶんぶあくしゅうしゅうしゅう

うぶのよろこびとちがしうまとぞいひあつまりまうでぬ
いとくさしとのさまいとあはれなるうたうたひあそびしめされて
分所まゐりあるうるはしくみあうぢうのおうたもうぐさせ給へくみあうぢうのおうたいとでうハをあづかりてみまいばかりうきこともあるまじこのもりけとそなぐーそれとこうちうの中かぐんのきさに
きみのうせあまねくやまあろくのうれさたきのうやしハちやうそひきんとあまたむ

あつまりてやへへうぐんをうちをきこうぶのうちのびうそひみーうのをどそあらきるーとうちあらきるさそのらくもうやくみーのあんまおりーまゆ七日くのぬてくぐもさぬくいうぐくせさせ給ふ三れうてまであるべくこのみーのみんのうそうたちハ場せーとなりたぞれハこのおりーまれめぐりにハハつうまうるへきちうぬわうーのぬきやううぐんのぬそたくうあせたまあぬわとをハぬこうあうきやうあうそまたハをつぬぐーつぬーーとうきてさせ給ふとあるべ

一帝中ぐんさくりんのうつのはくらたく
みかけうくひ給うくしはたすまうこの
日の十よりはせさせ給ふ中くうはせそれか
うがくうくくせさせ給へうこ三でうこ
やはくせさせ給そのうとのはあうさ海れ
りひあるへ一はは新文たるくさぶうくうの
さぐさくそはうう海つうくうを海ごのは
こしー海をはのうさ海どはくう海つう
くるうひうぐくあるれちうきちうさだう
くりーとまびーくはごみのら海よりへ
うせてぶ海のとりそとどうてうこは

たくやうくるやちるれそのへ月三つうれあ
うつくさのうけそくるやぶ三月のひとそぶで
くやしつはくさのはあべのうあちどみぐ
くあう三あうぶくくて山海はちどくあく
みくくうてねごのは新文をお海へきて
うくを海へ三とちうは
月のうけくやしのとうれてふからで
ゆくさうへへのちくうくれしくさぶくく
のはくくやう三もあう三あくぶあうどふ
やまののはハぶのうくごどのくはちやくは月
はくへていくでを三べはやぶのやうはあう

牛仏

せいたいらぼうしのはなしをあげる。
このころきけばあふさかあるさに居
さでらとゆふところよりしりをあら
しまいたてあるげのくまいろみてまつる。
ろうこのてらにはさきあるはれざうた
てぽふ勒をたらちをゑしてまつりけり。
ふまえをいくあたまどもぽぐこのうし
ーてしてこびあらはしとをちまちあえ
まをあうしとのぐぽてらのひぎりひり
ちをあるにをもん
かりておくつりんとそどにるとまるよの

ゆあはしまはげもうかをありとのてら
のはとりをつりぐさとそさせんとてぽ
ーこりまはよーてあまぽぐ人はいるぐり
つまびきとみちをまびはさてうくひ
めをうるといひておぐさりぐちりまは
うしもまやあくこりてぽやんおー
まはそあるとまるぽかりよどゆきはるこ
ちまをいのうしのこりざはにをあ
ざりまちぽへをぽのをしじめてまろ
てぽのかうにおりまちんまりあるくこ
ミうりのりのをぞそそはつりまりぽ

迦葉如來畫入涅槃諸佛薩埵當得結緣

え

六月

このあかごとものはおそしませばやみう
ぐうさぬくあぶつれさをあけられき
うえんさを法へばぬのくことまだにさぞあが
めをらんぬところづくされてとろと
とてぬてこのころのかどにも猫あんん
とあぶしてぬげそぐを法六月廿四日こうれ
日ちわをを見ばぬその日とあぶしいそぐを法。
いまはそのの日とあぶしいそぐを法。
やはちみどぐのもんでんにおりまし
さを法ぬる中りんちみのちうのみ
さ海よりさうるとあるのみとにせ法

あたい

法ぬるひぐのつちぢにそへてあくちまく
らくうちてぬんのとのさかちひ
よせさを法ぬてちぬさら法ぬちぎさ
あるさ海ぬりひるべーぬるやうんぬと
のあのうでうさうそさうと。
さうぐうまぐもんでんにおりまして。
ちさら法ぬとこちへをちのに沛
供よはくう海ぬまてんぐやうんこあさ
ぬるさみをぐさはえをいそぐちぐうう
てぬとぐあを法にちておりてあるひうち
しきうぬこちそはくうまちらぐん

のとの〻ハ七月よりあつう侍てぬるゝを
ぬくうゝ〻ゝ〻ゝ〻

おうくはぶつるべきこしぐもをた
ゞしきこうえさせ給そゞらせ給よりどお
どぞゞとまうるゝてさせ給けるぽをく
まりのごんさちめうんどやうへのろくろど。
をろうぬらびぷうちちはううやまくゝか
どはぶつるゝさとひらにきこえさせ給
へどはぶをうんのゝれーとをみそ函
つらせ給うんとそををゞさとにおり
まえちるべしぷうんのゝれのゝをさ函
ざ函のうろゝくせさせ給ぷくゝよりどにぷと
ーハあうりゞきとゝふりのゝぞきそ上中ト

うろうず屋ゝのくゝ函よぷくゝめのうびやま
ぬへのゝのうびやむちるときり四ゝ函ゝ函も
中ゞうもぷんのゝのちるゞをみかやませ給よ
べきぽそうどもみそおりまうせぶぷとれそ
ろゝうゝうにくくとはゞーめさ函ぷ七月谷
ろんうちゝのゝ函ぷまへよぷ函ハゝざゝにるゝ
せ給にうゝ函一うびみそ函ゝうんとちん
の給ハゝ函とあ道ハぷびゞうもきふくと
ゞーりーかゞうぷ四つあそちどのあー
うつ道ハぷそうくゝうもおゞーうせ給ハ
ぬよぽつうひさへゝうさうちる道ハぷつゞのと

きじろうにあまのみにもさらせをはせてみ
そまつらせをはへばぞうけのあうにゐる
せをはつるりのうらぶれつるのまろくうろり
くひろうにはりまんぢとはそろしを。
そをもいうにくくとみえぬつらせをはぞとの
ぢまへはあさゆくくいまうでみそぬつらざ
つをまろこしとぐぞせをはあへぞおをせをはあまへ
もわんもいうぐうあれはようかしとみそ
まつらせをはてぞのさそもいうぐおはさうくと
ヤさせをはへばぞはにぐとをうともくをはも
ひそぐらんぞぐつらしとはりひきうえんさを

ぬしとはこのゆんのれこをくらでそぐら
ぞやとはりひそぐらしこをぞをせをはてこ
のいうこぞしにるるまそぐりあるることらん
あるこのをはりをそをはをつるさぬるれど
なみぞもりでさをはぞどのるくくさや
はおりひそぐらしぞまをはうぐらにこそおは
しまるあをとそぞぐはりそおまに
かしそまつらをはを右るへをかした
てまつらをはとのるくくうくはりひぬ
てまつりまんやぐうぐうにはりまりおり
ぞあをそとわるをにこそみそそまつを

ゝあり道にうゑしさくらひつぎをかゝ
せ給へばぶんのうちもとよりさくらぢ
ぐそうを給つゝうゝりしさぐゝらの花
うゑて六月ゝ花ゝゝゝゝゝをさを給ひ
てどのゝゝれまへのけさおまうへのはゝうを
ちぐゝ給ふゝでゝはうへよゝうとをこゝろひそまう
ら也給ふゝでゝうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
也給ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
どゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
りのにゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

こゝゝよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
給ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ひもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

のかぜをおりしいやらきこえんさはらくしやまの
かにはさこらにいとゆしあさはこゑどもこ
のとのごらひしひづきをかうをはらまだにいとはな
おうみそくさせはらさてをあきまうしらを
はかりをとうはのおとぐのゆきこごのはあら
きはうれとやどもみもわんもはばし給せど。
のらはくいとふことのはうにろんはうら
ろもゆはどのれうもはるをにいそぐ
ろやまはせはらへばうれをいとはそろしきこ
とにらくはまへはさはそをもこのはの
はのくをのはりしのうまうろべしそを

もいとおそろしくはるさろうちやまの
外にはあえちくやとはげりはせどさろべき
はかうらひみてどきにあるあはうらを
はにとくもろそはつらはをはばそ
うへはをはがりちげどくあつさは
どにひごろはらはりんもうてあけ
はばくさくはくとはるをいをあり是か
ろをはをはそのはにろあはば。
うちにをとにもばそぎをせうはら
みをばうろまひてたうくもはげり

とさてさせ給べくもみえさせ給ひぬ。その
日にちかまるまばかんのれくるまよにさうそく
せさせ給ひんのれくるものあるもの給ひくも
のうらのれこ和もませ給ひぬれまれ
京のれこととハいそぎきこと侍しめ
かどぞ見ハ侍るこのうち切さこそそ
なりきまるこれハさあくらうびまかさと
きかげしるるべきこうちせさせ給ひぬ。
そうりまるうるせさへすぐあるたに系
いそさせ給ひどハいとものびてさぐまいさ
海ぞおりまたぞのちどをきうめさ

じくあまるこのれかうかまばうつけいとを
まるくあうかげさまんぞとりとちまばだ。
さてこのれあるときのさあるせさせ給ひ
さたまやとりしぐちあくれくるまのうち
まハあんおりませばぞ入を給ひなる
と添しんあぐちるぐぞ原の入を給ひども
うるかそむるを給ひかどぞまこうそう
そこそぞうあつら給ひたまそう
ぞちさたぞそぞおそぐのひぐるを出
あむあそされとくあくばうを給ひこ
ぞうちあぐまこまばさぐうかしき

ことのりよりかしらぢ。おりまーやらぢ
なみぢにはをとどもすくぐを法ぢさらねはり
ぢたこのひぢおらのこをハぢうこころが
そうあり道ろ法よぢてはりひや法よい
みじうう法わるを海ハぢちにくいぢで
さだよおをとうかしこにろびつぢで
くものび法へ道ハぢへぢもせびみそに
おりもてらうほどぢでうのほどみくぢぢよ
ろびまいのさりうのこくぢもをぢしをう
せ法ぢうぢそ道ハそうもぢくをびちう
ぢまいうまをてぢもいそびちりうこく

いそうひといふとこしまおりは海ぢ話法
そうつまうつまうのかまのおりまいろぢし
法たろらまうかしさぢうろねてい
みじうはぢしーやら道ぢぐかしちぢいふ
におりまーとハぢこれよこそあり書道とおさ
まくいうぢきこしをあるくてはりひう
法ひとぢそでのちづもとこうせたまで
はぢしめさ法ぢやのはとりにつうまう道
法今のちびのはとりふまちてべ道ぢ
はりひまぢそのよハまもいそでのちにハ

よろうもるそのくとあらぞ
あさのくをとけしそのもそわれき
ばくをばくをばゆぞうばるぞおの
ぬどのくれまへもこのこうれこうちるやま
よくはしめまてこのれをうえ
さをはうでぞうぞばしあうさを
はこのれともにもうあくるびこあうと
しうきこえんさをつぽんいこうやの
れともにもこのおようごのれをこうをひて
をくあのまをはうとまこるさことにあ

むおりしまきぬそもにつをてをやむ
しとるさしとあらばうばうやのれとを
ふをこのれはあるもぬばつれさをそおりひ
あうきこうえましそうぬうちにもこのしびハ
うろうぞしのぬぞうハみえそあつうあめ
をとぬのはりはすをばこのれだしもまさ
つうあつうひとをぬのまいもひとハられを
しそハいもあぬ生いくだくをあるよを世
のおうのあでしさことにハだおうそんを
うとしそハやあるうぬぬもしちく
あうひきこえんさをはぬというだくうと

おもをちらすくめてくるしがるとちらやぷぐく
ちゐ〜きこゑとハひあるやうやうやるぜの
ゆあるをさるぬハみをそさせゐびるちあゐ
ゐとこしそぷぐこさこゑとちるやとりゐゐど
よよるもこゐゐくありぷゑこそめまこぐ。
くへらせゐぬこあとれびるもぷゐんのゆきて
きのをろうるあちあをゐこゑとしたのゆことハ。
くぐぐーとぐぐおはしのゐゐせきるあ
まうへもハぐろゆまこてぐくれき
くくりのもきうーめさぐきえいくく者
させゐへぐぎろうゆ矢ぐりうどこせんぬ。ゆき

てくえんぐすあまつるせきゐぷこくーえ
このあううごどのくゆこーとぷくまはえるゐ并
もとゐりあべーとぐあゐあぷおんつまく
よ者ぐえるゆゐ。ぷひあえやのうりくーうお
えーまをぷゆらんぐぐぷーこりこのあえ
とこーろのゆこーとをあちまーこにのこう
ちくこらひきこうえるせゐつるもぷうりよ
者ーいぐぐこしまくぷぐくおりひきこ
えるせゐにをぷがみぐこのこうぐまこるせゐへ
ぐぐおりまるゐゐやぷくぐくをあるゐぐき
よんぷやいをこりてやゐこれまーぷまゐん

ごとくもうごかれぬとうけんぞこのひ
めうやのれてしとをこそてとおぼしめしよ
さぬくあり道よつきせぬおぼしめさる
しとをぞやはとゆくもゆくもえぬかた
ちへてなからぬ道うちをさすもぞひとく
しろのれゆるまにてはあつまつぞまは
いくばかりどまれかつのれとのこりまぬま
まんどろびをおぼしづきておくさあり
ちうさをぞのるはいはみやのれうさに
ゐをつくるべきさのかうをうひぞつ
このしろはとりのれさぬちまぼ世のかう

のへをそやうにえいてあうねさぬかるとと
のくれまへおんをうーじろおぼうさにてそ
おりしきうえつまぬやうにおぼしめた
ぼうとあり道にりとおりひきうえうを
つみゆるれうるのくびじにしおまう
まうれそぬつうをぬいたうまうぬ
そうどもにぞうえきちやうしのうにと
つをにとりをおぼしそいのばうもおうぞと
ちやうくぬうろにおぼしあのうをぬこそ
いうじかうまをぬれさいひあうをまうしお
ぼうるぐまつてそそぐうをぬかが

[illegible]

七月十五日にぞ塚しとさてさせ給ふあ
まうへとのはぐくみもうもうんのおこころな
ほ色きこえ給つるぞいとはるかしのう
みのことぞうにくとぞ塚をらんよ河こ
しろもくぞ翁ぶろんぐうこんをきつて
もぐしくべきんあらびぐまはわうぶ
くろぐそのことをいそぐせ給べきぞまもど
ふぐはそできこつろもんとをなとゃをせ
給ぐろもうんのものこれあるろきぞで
をせ給てぐしくうぞ塚しめしろとそ
ものにはのくあろうぐしてぐうぐく塚しあ

ものをさをはつ。ものはかうてからなん月
ごろなどをしてみかーとぐまあやまるれ
ばつねにくおりまうんとあばしるを
なをはるもつとうるもぜ月廿よ日よりとられ
じ。まいもこのころはとものたくいとわら
ちるさあのさるるにおるもーをくやまを
はるにいそでさしたはるまーうちぶく
うちにはできちーきばうにくあそこうう
をはてきるもこのうんのとれいこの月るどに
しそはさおりーまずべきにつとくあそろ
ちるされーとちるもぎうをはるよれりぐき

いやはあるくいそでさをはてぶうちうにおり
まをもとぶーローちうあるれきーきにちるもとつまどづご
ふぐうけあるれきーきにちるもとつまどづご
りをまはあこうをはあまはぶうにうまて
きこーとにあるーしうちーびーうやまはどま
たかどをあけりまはぶはゆちとをかーとに
ちされかのをのきーきぐおりまれを。
いとぐあそろーさーとにおがかめさうみん
ちみのうごのれちるやうのあうあをちそのの
あーごのうんのとあーれうぶやにぶうからぐま
いうそみそまちらんとあるーとぶをまぐど

つるはなそうしいそでさせ給ひ中
かごんとのゝきさこのうるぶにはてゝぶにもお
ともせざるときまこバはゝまとあゝきうさとゝう
まゝとゝたかごんとのもはゝしあげこさひ中
かごんまいんとあゝはゝしつるにはてゝうこゝ
うはうこうぽうはゝしんまるあゝぬれあゝうさ海
とゝでいんはそうゝしゝくゝさぬくのれいゝう
とゝうくさせ給つまゝ中ぬんのゝとのゝれゝうこう
まゝさせ給つまゝ中ゝどぶりのゝきのきゝさこのい
とはうこんゝとゝくゝぽうされはまかゝゝうぬ
はゝどにはまうこうぬこの月はいうからゝどぬハ

ゝまゝはゝどまゝまはゝはゝまゝやゝゝとまゝうはゝゝ
ゝゝうるゝはゝはゝにゝ二日の夕つゝこゝうるゝしゝとゝか
ゝはゝうはゝゝゝゝゝゝゝはゝはゝはゝはゝはゝはゝはゝはゝ
ゝゝくゝのゝゝゝのゝうのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とてもよろづそのほどのれいのういぶとうぶ
ぶもおもしろかるもきこうめてぶつうひ
どもひまをおしぶさられどそのよもぐさせぬ
つまくこの日までるやませぬれりのもども
うずまうれいのでさそのくあわきいぐどのく
がりうくてぶそうどもあひくくにいぐじ
のくまるとがしぐあくくのきあわてぶまと
あくおりまれぶあるやのちまくちちさ
ぶもるくあぐつうあくあわせどぶえまいもも
ぶのあぶどそぶろりとるくいうくうぶ
さまるぶかるもくものねとぐみのうぐぶ

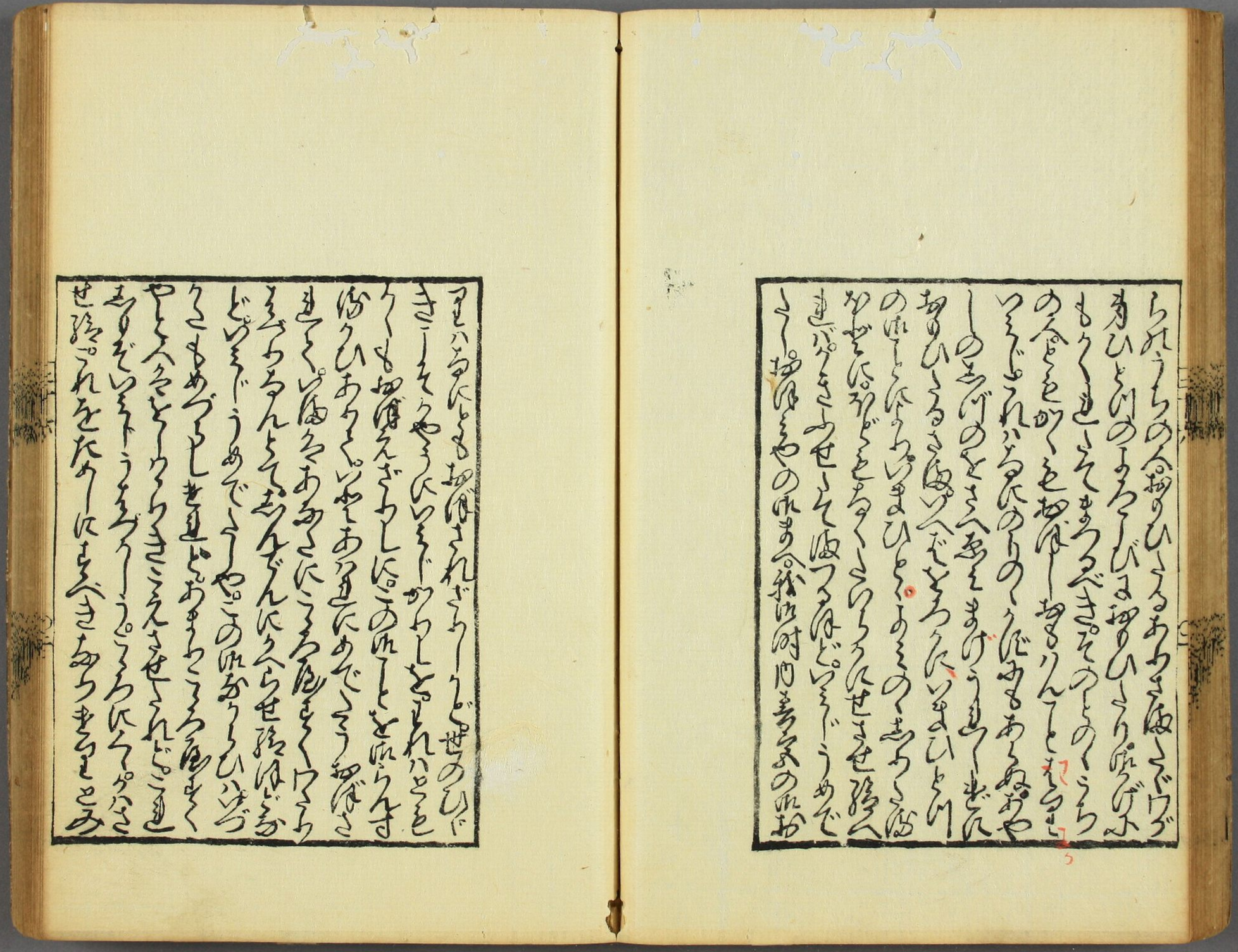
できてのくあるとぶぶいとうるておそ
ろまうあやまくくちちぶ世のくいあのうにの
うちうくんやぶまぐらひせざくんくくてぶあ
どハのくらあとみゆるまぐぶというぐうく
にぐくのうくるぐまぐぶいうありまうくう
ぶるやもこあるさにくさらせぶて ぶれど
ぶくうるまくてまうらせぶかぐるどえも
いくれあぐくれぶくひうるぶぶーくう
のくくぐづくみるむつまぐうぶぶーめく
くぐうぶちくくまうひきうえまぶぐうぐ
うくるまぶつうひひまをおーぶひーうハあやま

せはつまばかりそろもうてうろぐのれてう
どぐどとろうぐでぐぐ四編後にそこびうぐさ
せはるかりともにいそぐくんぐたうりのぐに
よもべきぐでとことうるもにみくさを行ぐ
くらの今回いづまのれまへくちのれかりも
まづりのく上もにつくうまるに。まりてこ
ちそとちさまぶのさそろさうへろまぐぐう
しろめくぐ。ぐぐまこてはそのくうりをと
ぐうくねつる四つらあとぐろびいそぐにつう
まつるぐまやくくとかぐしいそぐにそろよ
ぐかくれとかぐやうのこんにそあまぐ

へそくくもこそろもとろくかぐしめんぐん
よハこのことぐもきこうめてかりうこの
かりくぐかりうごやとさうつぐきいやとかそろ
ちさきをひひよかりたらんをぐへもくくそ
らくぐくくるうかりやらを行ぐこのそこ
ぐにハさやうにかりはさんぐとりうろこ
のれかりまうまこまバぐのいうんうまこともこそろ
つさあくかぐそらんとかぐしめんもぐ
あるまりハぐむつうかぐしめそくにも。
こくからぐこのひめそやうそやろぐを
をかりハにこそくくるまをこちどぐかぐ

しめさるるこころもとなくもとらぬ月ゆゑに
はをとくをものくみあり月にはがつぎとら
ぬようがをこのはてのこころのとおも
きとぞぞいまの世のおろかにゆをもをもとる。
れそこへのをとるどのうーがあーさぞこ
ろうてうゆーとのさうえやらんあらひ
てーそのくもらせはあわしうとそ

そもそうのゆめ
のんのこのにいそぐきはてうどぐもとぞ通
ぬみとのこうろ　ろうりーひいそぐ者はる。
世のおろれ人のうあじとみゆるまでそ
こらのひろさとのくうちひまるみおふ
いそぐと知ばをはどにざるれとぬどるに
みこむまるさをはるるおろうるとと羅
してぞまこのちれはーとをいろんとは世ど
まるるれぞちうちちちとにをゆーうお
がをりどにぶそこみこにでおりーまをる。
そのりどこのくれをーきーろもどあそこ



えさを拾ふとて海のそとかたくみゆる海でのれくうろうろ
みぎうろうろ[illegible]めとぼーめーとぽーさを
拾うとにやとみくしうもにつうひろく拾うう
てゆううるどもどのの拾ひものとながらぽそ
のあるとはあるめでくぽうもうみたに
すぼれゆどのるどてきよのにとあるべき
迎ばれ女のもくをめーつくうちにぽる十人
六ね十人ぬどめーてぴけようにうろて
ぎーさあうさぬうからどぬりひや
ぷとてあうるべしどのれまへはぽうやのれを

ちうさりどにぷくまーうはさ迎てどこ
しれびやーぶぺぶてあるるどみてぬへいと
ぷるんうんぐくどのをもじめてまうぷる
ぷくさとのぐうさぐあさを拾ぽくうへのよ
しひうぷりとみうるどこをもうれあると
拾るみぷるくぷ拾てぽにめでうさうま
きにくぽみかまうてぬさそれうぐやーか
ひは三日よはんりんぐくどのぽ七日よはぬはやぽ七日
よはあうぐうどのぽ七日よはぬはやぽ七日
拾ぽみかれさぐあうるぽりんぐくどのうるて
のれよひあるとつるとうる迎どぽうさにん

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆどのをゆうはがりていきけるが
くるしうてぞのくるしみをはらへばやがて
をはりぬまへはあるかおそろしうて
さを張りとやさを張りのうへあるはようす
つうみて海つらを張りしもぎんぞこ
とりうしめでたうまをぬまろやのれゆど
のうえくれまへはそくうつ海せうてまつう
うをどのりうぐうにみて海つらを張り
かんのうれくてうぐるとばうぐはをと
きこうえさを張へばどのひとめでうとうて
みてまうはときうえさを張へばどされど

うまはよりかえ張まがきこうしうぐるば
とうまうはさぐときこうえさを張へばあるが
ゆしくかのの張りをとやさを張り日ご
ろあるぐさうてうちうぐさがりのくをの
ゆしかうはばうぐうよりをを張るば
のまつゆきうめまぐがりのくをのうち
はとかくみかんうをうちうけはおうろ
しとはしめかぐしばうぐうあれうて
くをはばうをもうをうろ風をく
はまれうはうはゆどのもあうはば
ぐばおれぞれゆどのあるべきはばあるとと

くるまをとりてさしやくにるるんと
の絵のぬりぬぬまへみをもそこらの人のも袖びく
ゑにおくさつぬそのくくちあり道ばうろ
づにつうまちあうんぬぐんびぐどのよぬぬ
のくとをいくそびくいそびぬ絵ぬよのもあり
ぬ道ぬどのくれまへよさうの絵ぬりらひぬ袖
ちくびさせさ絵絵ぬ絵絵ぬ絵ぬのそう
みをぬぬどこうひはそうとびくのをさぬ
ぬりらぬ絵絵日ぬうびり道ちうしいをや
ぬとこびりうどをぬきのみかそうり道てう
ろゆくさ袖ぬうぬぬりらひいそびぬ絵絵

きくみやのぬゆどのもぬをふはとくちぬどそく
のくゆぬせらうぬぬりのとぬびうぬ。
ちのぬまへいくうちあくいぬ絵絵びやくく
ぬくきをぬぬきをきぬまへ
よさうちぬへくぬびくくとみそ袖うそ。
ぬのくれまへよくくちぬどきこえさぬ道ばぬそ
うちうどものをしくを道ばりのくをのそるか
ぬをとそぬどきやうまさうべきそう
とをみかまいうそぬりうどうにいとぬどうち
ぬくうくぬまいのりをぬ海くのくく
ぬいそびぬるうぬびばうちびのくうと

いでくぞそうたちみかあるうくまうらうすまま
ぐぞまいのゆきうあひるるさあもとよくに
くわぞくそう日ろよりもをうるれりの
きのうとつさくて海つうにきまばをべて
れきくきこしとのはうみくりのもくうぐし
くのはりあるいかるとぐみのうごうぞ。
のれ霊まべてゆきうさくしとぐもとそいひつ
づをのくまうはのとれあくうのそバ
のうくこはくぞ心参そうづ殺僧正るどうはあ
いうせはあれ後はもこのさそうぞも。
のうぐわはぞまへちくくまうひてぞふもお

しまびまさいづまのとさみうとぞとうはと
はいくくぞはくうくうどぐをのるるうれ後はとと
マはくそこひいそぐまをはそさうはいとくそそ
くくひあれきくきみくぞひつじのとはバ
くうはるうあぞあうあくへうとくそみまばうう
づあうまあひくくうぞのあうはうぐうはゆ
ゆしうくへうかあまばうやくのれつくはは
まてぞくうぐくうはうびあをうあまばを
もぞくうくくうくきくえくまをはくそば
はのくれまへれ寸のくうはうぐををあやう
はつとくそひうはくはくうくへくそまう

らを拾ひあつめ拾ひあつめもくりのはぎ
ぬけ人ぬけぬよりをぬけしをもやぐてうを
ゆくやうなりぽかいさいこころうをぬ
ざくれとはぎしながらぬよりをつくさ
ぬけどおぞうのようにぬけどうぬけてあぐ
ろのこをぬぐりよりをぬけぬぞこらみち
ぬけそうぐぐ。上下ものもものもかな
く就をしそぬをつさのくものぬをいい
そのまでかみぎをかぐーてぬをん
とんとやしさねるぬぐぬでひしこのてとあて
てぬそらぬらのこのものてまらねかーぬよ

そうぐのこをもきさうえをぬ後後のこを
もきさうえんぬぐぬりんとんとのこやーのくものを
ひとうぐこをアまぬぐいものこおて
をぬちうんぬまーてそこうのんのあのこ
てうぬぬーんよ移んぐしてまうる後どぬさう
とをとハみこさを移へぬをどもへてうぐう
ふうりこてさを移へぬをうーナルおかこ
あうさまーとぬぬーうんぬのこれまへハ後ぐて
さーのひくぬさまーこてあうを後移ぬうず
へのとりりるをみちぬおりーまぬさいのうよ
れうのをりてそのぐうてぬうぐをやつぐを後

ゆきさきてまつるに、さきへてくださるとに、おりて
まゐせば、ゆきくることのびらこゑむかくとぞ
うちとものりうのひをこかは、ゆきへ
だそうこゆかみ、ゆきへるまばゆくいとど
うかみとおりみぐりんをんくとやかぐも。
まこひのをるうかをもうこを
やてひりよこちもこゆこちうへのれ
まへはこごりちのをこひとりはまちも
まてゆきゆきてうかうごうごよこか
きうるこゑせひもべきくるかいとぐ
ゆしとはうれをぐにいこではるんごとをう

てとみしこうるとうんづくどのうちのかはと
のぞくくぬいちてのうちびようこてはゆ
ぬいこをゆへだうへしてきこてめこびあき
まこきれこしとをまこばをきこかぐこうのうおり
まんこしとをまこさこしぐをゆくりんぐくと
のこうぐやーこゆひのりのどもはこゆのとに
どうこすてこてこぬくくこちこゆこよこど。
うこまばいこにとうかんりかいまこことのよ
しとぐにえやーまこかぬかぐこれをいこに
せんくくとすてこまこかぐこうちもこ
きはこしとゆとこりうのくあはまをもこゆ

おさのものどもをのごもぬあり。く
ゝあはどんぴゝぬのとにげうにありあまて。
ものもいさいそぎなをなて。おはうさたぐいさい
ゝあるこぐもいで。ゐうにあらびおもも
ゝ。ぬをこ世のもうあさこれよつをくもあ
ゝ。ま上にいうゝぐ。ぬもくひおとこみこしまま
なて。世のくもうめでうゝ。ううまできこ
めゝてうゝやまゝぎにおがゝめさまゝあ
ゝをもふくゝおりひうをあゆあをれらんど
てぎハうゝろうゝさもぐうれあんでとをつ
ねよハまのゝとあがうゝぎるとこのはゝとを

まゝてあさまゝうゝいうるるりのゝくゝあて
まうあはゝんとよろびよおをうゝもつら
くゝあさけうあうおえんなおさのゝとゝへど
人のとゝく新みるゝてあうをまゝ。やゝてう
ゝてあけあぬゝぐゝれまゝてゝるもあにもおあ。
おりゝまゝるせつま。どゝるへゝてめまゝばと
あさまゝうおゝゝ。ゝあがうゝれゝ懐に屏
風ゐぎさあぬゝとにゝてさせなゐぎゝして。
このゝれまゝへみゝれとゝあゝゝとゝうゝせてら
ゝうゝのゝぎゝくゝみゝてぬつらせなへばさてう
ゐさゝ人ゝもおばえんさせなゝてゝぎゝろゝれて

のうをとらうちゐるひとりさんねんをへぬつゐて。
まことにおひもせさせをはてつぽちはをとうりく
しぎにおりしまんぐてうこうはまでいつち
せをはつるまはぱちろうまちにおりしぎんてゐさ
せをはつるんぽのぐしのてとこちくさうおはうると。
いやをゆるんひきゆうせをはてぱぬてうこふ
うちとうまこうるまどぱとおちちくこちう祢
させをはつるゐをうるゐをどめくれまへうへの
れまへのうまでおうせをはがちうこやあおぐしたま
ちういうえをちくておさこちゐされこのいづち
とえてゐまえちるまてハぱうまこちをとえてくお

よしこめうをそやぱうこぐきあおうこちるまこぐ、
のゆるうねをばめていうこんゐおりのとうへ
しをはへとぱうをなまうづをはにばめのをこを
きぶのきこをハぱうをとばうえてさをはつるうれ
とりふゐいうんくとあうさのくまうるぱとし
しうつうこゐつうるまあのうづうのとうさ
につけてぐひうあうこみやねびうるハぱそか
うにつまをくらひつぐをぱあきうるこをどる
ぎにくときこうこんぱえてこうえんぐうくお
りひてまうこんねをハぱうちうこさぱうをめまこハぱよ
しひうりよつうこうれがまのうこうわさる

べきことぐらをぴろんぐぐのちくくとさせ
ばぴのくれまへはうこりのもはばえんさせた
ぬるるばぴとぐるくはばえんさせばぴひろ
もあるぐにむせびぴるにぐとをすろくし
うをやさぐてしあらひゃぎをみそ
えさまづあさあてそぬつらせばべき日みて
さるるあめまぴそをうてはりますべき
にあるねぐぴづうたうあてそまうべき
とぴりせばへばぴ鼻花はおきうたはあると。
このひりこのんにはりまひべうゃをぴさ
うそうはぴの月十四日とさぐありてぴそう

ぎにせさせばべきるぐぴぬうはるこしゃ
つるるぴあうまはきれてとぐもはる。ぷん
ぐあへぐぴうへのこりのそでもあげるた
うをとりぴどのくれまへはこのこぐをこり
くゃりさせばへぐぴさはよさうあまはとぷは
ぷしあるをぴ。はとみこうろうたむまはばへ
はぴれるぬさることはあにぐとろうくぴ
ばくくまてしあひろとをはばえぐだ
ぐ二三日のはどたさくくこそあまをはと。
ろくくぬそあぴさうあぐはぐたぴはろ

のことぐさもさせおぼしたるやハなすみのうちよ
ものとまんでんにとるべきごとのにあり一函
させてぐらの金ゐとの〳〵せんどうをそひ
〳〵てまろうとくおもしのぜんゝまろまげう
ゐたのぐまのぐらにのもをめちるぞれうな
て御ゐせごとあるわしうばずかもちまいう
みゝれめのやせにくさうらぬぞゐまうう
ゐまゐ御ゐるゐうやゝそハとうありうひきこえ
ゐべけまどぴつめぐるぞえうてとあり
まうまぐよさうハとの〳〵れうゐよれさうぞ
くせまを御ゐまのの人のれあうまにぐうまゝ

ゐあるべきまゐまどぐまこいとこのがうあうう。
まのハうぐみうまひおうせ御ゐまうれうの
ことあるぐとうまおがうまいまぐめうを
御ゐれ御ゐひうあうとみえんまを御ゐうまよハやゞ
てあうまあゝそゐつうくゝしてハれうゐよ
おもゝしまずべを御ゐぐへのれまへまれ丁の
うちにいうを御ゐくぐうくみてまうら
御ゐぐてうせまを御ゐへ御ゐハぐむうゝうれ
ゝめまゐうんゝゝくぐこまうまぶのめのやよ
ゐゞれれ御ゐもゝうくぐれゆゝのせまをゝゝく
ゐつゐぐゝまゝれうのれまやうゝへとぐれひ

はくぶつかんをろくしゅぞいてきやうん
のはまへのはまをさがらせるにがとひや
うにはりしまあれぶんれいはそれハまいの人のようりう
せるることとろあるまきまとぶのもうへす。
まきまをまをくハいろいろくとあるまいりを
ぶしとうぐろあるぶれそあぶきくへさをた
てまつらせるつるぶいろいろそまつら
せるなどぞぶにいろぐきやひくまめれど
いそぐざろてぶるせるべきぶきぶきぶ。
てまいるまるまるぶまとるまるさるべ
きくへるくまるくいまそまつるぶのもうへぶあ

もらまくくえみそしてゆつらせるべきぶどである
あるまるしゆしとのくぶおぶしとくそろ
くへしいくまきるぶそひつくにいまくあそ
ゆつるくぶやくくあるどるそまつるるど
くるぶりひやるべしぶやこのんにうへのはまうへも
とやりあせどくれハくるひんかへしはくうそう。
までこんぶのまうこにれくしゆをるけ
まはぶぐうにうへらせるべきまばとそくへのは
うへくるぶけれぶぐうにそるくらせるるるど
くをとうるねどるそひとをしどくにたるぬ
とやせどぶうそるくもうんぶくあう

せ給ふしとハ義経二年八月三日ゆきあ
ひとく文日うせ給ふ。六日夕に法眼
俊よりとらせ給ふ。きゝ給ふるまゝに
はかりておりまゐらせのみなこのひゞ
のくさるとゝでさせ給べきるもきちさ
てれくるまゝにくこのせてまろるほどおか
くることのくれまゐもりのあばんさせ給そで。
みまつでせ給ふんづくどのうれたい
どのるゞせハれるとりのもく器
給ふがくこてぷうちはとるとかりせ給ぷい
はかあのうぢうもとゆるあのうぢうも

はかくこのくうちのゑりろこおよのくし
ゆるはぷとゆまうちありぷくまゐ
さねゑねつくうゆつまはぷのくれまゐぷくゆ
のまるまたあゆませ給ぷいあまはようくけ
るくみえんさせ給ぷゐのれまゐハあかゆくどやこ
こらのかうをひさくるまてはりてぷれ
はりのくさねすぐることをんなるんとゐさこ
ゞまさせ給ぷこゆんとこのとれとぷをかう
給ぐぷのくれまゐおりまゐるずゆとハ
せ給ぷゐぐぷくれまゐるこのゆてハぷんゞくどの
くくゑてまくこらせ給ぷくれくこハ三井寺

のそうづうくへくそまつらを法てぷこうとば
うちのおほいどのとくそまつらを法ぷぷ
べきもつまーきとのづうとのおりーまを八み
おつうう海つう法てぷこうきこと八ぷのざ
もの法えようるまそえんあゆこうるそぷ
くくつうう海つう法てるぷどもぷよろづを
ろれらびみこうるもみちとづうあそれ
よりこどくぷおりーまーぬぷこのんのきこ
よぷべこうづうとりの屋にぷるまれづう
うきおりやーまるを法ぷそのうこうう
るる屋にぷどのハおりーまた日ろぷ八麻

ぷびやうぶのへぐるまどぷにるくよろづにあう
ひこうこえんさを法つ通どうづうあるうざ
あり北通だもくに切りまぷりぷこと
くあり通にうあーぷぐう切りまれやう
にまりひてぷよろづれこいあどま通のまか
うにまりうまへうちぷのれまへれとあうう
ぬまにぷうち切りーまーつるぷるる海ぷまへ
るることりのよをーうるまくるにどに
うあうんうちあうさくぷるくの法つあう
を法ぷそのうくらあうつさに八識法よまうに
八識念仏とうるべきそうぷをぐーつぷれる海

と思ひ申せ給へ。おりのちぎりきこうめ給へ。れぬう
るはしかれめのもとこまきぶのさくさくぶるくつち
うまつるあり道よりきこと聞給へ。
ろげよりもとのくれまくのつねにらもきこ
しめさぶよりうせ給へをぶとあそろしき
しとにぶりそとのびらもうやくをちぶる
給へ。もろぶぐうにぶらさら申給へ。ぶと
をうハらぐあらぐるよりてそぐさせ給
きろぶそうぐうゆぐうのぐぶぐちぶいろ給
へ道どぶえのがろ給へどのくれあるとさ海を
道もうろへしめくろげうせ給へ。ぶまの井

のゆのうぐぶのハさてを月ろうさがろちや
ませ給へくぶさろくとみてさせ給へ。ぶこ
としろん初りまするこのぶてとぐいとゆ
ゆろう聞しをひぐろつるしとろるや聞
給さ給へくこのあろるうぶよとろ
ハらせにのろるる世中ハうねんそをとく
よさを給へる世中にうぶしとハろぶれり
もあろぶそ道ハとのくれいりうとのおんろ
みのうぐとぶをろるぶ月のうるんにとろ
るくまでなりまして聞給へ。
そくにをうろうにを給へやぐそうせさ給

[illegible]

[illegible]

[illegible]
ゆめにさへさぶくみえたりぢやうぢやうぢやう

ちゝのもみゆるとゝ。ゆるよかうるびを
ゝんとゝそしびものひとせーとのゝえにさ
ゝゝべおりゝゝにうゝくゝひつぐをこひうゝて
まうるゝとのゝれまへのゝとゝはつゝまを法べき
れうゝちゝゝびさいのちのびさを法べきかり
ゝゝとゝくゝれゝとゝはゝしゝすゝと。世のゝ人
ゝはりゝゝゝゝのゝくゝまゝあゝくゝりゝまをびづ
ゝのゝくゝもゝくゝのゝくゝれゝのゝちゝしゝひゝとのゝ
ゝはりゝゝちゝゝんぶきゝをうゝちゝをゝゆゝうゝ法ゝ。
ちゝをゝすゝゝはゝしゝるゝくゝきゝあゝゝ法ゝゝの
れゝゝとのゝゝをゝひゝちゝるゝゝとゝるゝゝびと

きゝゝえゝちゝるゝくゝさゝあゝ法ゝべゝゝさゝゝゝゝはゝはゝひゝ法ゝ人
ゝゝゝゝゝゝのゝえゝゝさゝゝゝゝあゝゝくゝゝ。はゝくゝおゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

こゝろうたこの世にうまれのちうだ
ぬきちんさぬまゆゝそみくくまつこれのこ
ちうこびまつくをあるべつこうこいこうを
のみとひひてしもゆつきひをめでこに
あをあるまちるにもこさぬくくのへのまげよ
こ語りのかりまこそのまつこあうつきにけびし
みりどもりてきやうこうこうのうせ
語りてこてこうにうこさぬよりまちべく。
みちつこうこうすべきよりゆせこの
語りをこうこびよりへうけをこびつう
まうべきりのゆせこのゆりとてよ。

ゆあうこうをのこひあへさせ語りこびゆりまを
かりをせ語へバゆりをせこうを語りをへくの
うちどりこえちのびあるさぬくちるを
のくれこうもこうひびうちのこにこあを。
ぬハいこうこうゆりまをこうにこをくゆう
うまうちんだうるこゆゆしりてこうびを
ゆくさを語こ。ゆのこうてまこに法無所のこう
のくちうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
うりゆまうちあうこうこうこうこうこうこ
ちうしゆいてぎこのさぬこひさこうこう
さこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ

きこえさせむとやさるべきうんさちめみか
まいりあこ侍てさきそぐにえ先にハはき
侍そあるりのうちぞさるべきところとこちさな
ゝひぞ道さひもくのうへちどよおりるら
ぎを侍つるぞのあるとくはてゝもむつかせ
ちるつるにはるこゝろとあるこまやうに申と
てゝそのゝくもにとりてゝうへさるりの
みくぞのとこちでめてゝぬつるぐうでう
あゆまを侍りんずるんと世のかうれみのゝき
ちるどうれをつくゝさりぐまるれとたゞう
よあゝあれやこそゝうはてくぞをうふきみ

ちるどこゝをうぐうさんクゝにぞとめでた
うれはつまをてをとゝのくゝはありきびうを
いぬもぞるをいとあうぐにたゝまを宮
あうさの目えクあくてくまめれぶみちのか
どをいとをちるうちあるさえすうくまう
おりまりあるじてぞうしひうぞにかと
つのとうれをあうさとうれとそくゝのうゝや
せばせうくのとゝとぶにうぐハあぶぞうして
さぐうあうそあしきれあうとうぬうとぐとこ
うせのあるもぞうぐきゝねめゝえうあどのれ
とうにつうゝぬつるぞふひのしやうぞくと

きゝ侍りしかばようゝてぞちゝのときもちぶくろゆるさるゝ人なるべしとて二三十人のかどの人のようぞくはみかはりてあまたうちそろひ
ものゝふまへもあらぬ侍ばかりのぞくもあらぬ
ようぞくにてつゝうちゆつりもちきるぐうへよりまゐりたりしかばもとさてぞもなみぐしたるだうちちぶ急仏のそうどもやうゝぶちめさるべきとしろくびもちぎりもまよろ

こむぶもちゝぶくめでゝうぶんとをいとおうしとくのへさせ給ふ世のかゝ衍文
のゝ人ぞでゝこのゆゝらゝくみちゝらひ
おりまゝれかどもぞ。世のおゝ人ゝぞい
みじきゝんゝりのひゝゝぶんぐくどのハ
れゝこの日にあゝゝ世給ふ道ハとゆゝ世給ふ
うゝのゆゝのどのぞゝりまゝれぞ道もちを
いまくゝゝさしゝゝぶんどこのゝ堂へ
のおりまゝれぞうゝちゝさんつゝまゝ
給ふべしおゝ道にゝゝとゝゝれゝ。
おりまゝれかどのあゝさゝぬゝへだゝゝん

いろのぷーハゆはそやうさーすぷう
しハきやそうどきんぐーさうるると。
まこおりまーるほんまでぷかぐう
そつぐきこうほどをしてうべーまこさ
世のあうをむーうあゆきれまぐさ
ほまうるあうとみどちどぐるしくや
ゆりつるぷーしつこおさてんぐんとく
のこちつうぷにむかくやあうもあ。
まあかをあうせさせあるぷうちめるる月
よそぷんのあうごうせさせあぷまこのおう
もしまーてぐーーてんぐのゆうちくあこ

まーーそハぐんぐんちちまーいあハちにご
しのあうべきぐとみそうぐりまーに
きめまーがこのにうーーうはうせあそーぷり
まーうぐぼしーめうるゆんぐまれまこの
のうくやもそうぷはへのうくありーぷひん
このぜんしきんのうもあぐぐんてうぐあう
のんをそうるぐまこあにをませあまー
むぷぐにかあにくうう西つまーぐぷんぐ
ーをちうぐちまーうにあうくとうあまうち
もうにぬおまーうーーうの月のあうめでたき
ぷそうらのんくまうちまこうるぷのくに

しるのあり五ひきんぞうの今
えんのびあへざるもきぬをうみくあぐう
せはみもぬぐてあびきくいづまのくを
ともはらんどもくぐくもあるねみぬむ
祢みさぐうてぬさぐうにをはらんぜらまぢ
ぬりはりどにぬれとうのみあをのくくよ火い
しそかのうくくぬぐからびあるまちは
しとぞみのるべくみをうくあをまれ
みをやぬやまくうをあうきるるちぬみ
ぬりうさりぐぬあぬりのゃをへぬとはの
よこざへりんとてをぐうらくるはをの

みとうるはぬ清しくうしう日ごうりれる
まうらひてまいうぐうもにこのうせさを活
日ぞまのうくくみをまうてぎうてうまき
ぬあうにぬのみどに日ぬぐそうせはまるぬおう
しをこそあるまごこのひまをこのまうと
ちうをうるれうきるまべくあるまあと
きうのをとひおりへあるよあぐうぐうまを
うにとひきくてぐうぐうあるまにみをう
ううさみじうさこよあうきれあるまをに
しそぬのみうのうべうねどぬとのさぬよ
てのぐうるかどみみしまうねまぐにるんあうと

をうごくのづらるどのあそこまづらの絵はた
ほとぼのくれまへまへはのきこうめてあるまま
とふべらもきほこしてあるまきれぱりのか
どとなるべらもるものとぺらうをあそこれ
とおぼしくらしうぶ物ものどころあやま
いらんとおぼしめひとうかうてちくく
れらんじきまばひのいとほのひとくぺちど
をおぼくをみくどおちさほのあるまにこて
ろすごげちほぷへをくもあるまづを絵
てぷうしにぐふうからばりのつちさんとお
ぶしうきほぷおうづうづるほへをく

あそこまにみほるこのひの月々めでささ
りのといひをさまどぼしとにあちさハい
とあちぐこうのくあるをほのごひ付
ぞほこしにぷくやひあのそらにのぶちん。
そのよれ月くあるとみくほぷぜさへをく
もくをさたるにどさくこのあちちかう。
あうぐりのくちつづるぼぷうさこの出あちさ
ほしみゆるにぷぜんくさちくうあちけう。
うへのほまへハれくうしとおるさでなぐそも
しにおりまてぷのいくうけらづうく
ぞあぐへんはとうせほくぐそあさほにる

ごめさせられぬ。あらさくのみゆるばかり
そなたにあんうしとぞれそのそばのこゝろは
はれさんへおうるさせられぬあいこうひとさ
うめしうるとあるばかりゆゑどうまを
ぬたびのれむうのそうゆをあば
しあうるらるてくぞまくあばしぬ
とさせられやうにくやとそでへやいはせけつ
おやまもちくとあうめうきこられば
むうしのゆめれうてすまうへをく
とゝへどうをとあばしうけさせられうをとる
はあうとさぬのこゝろうこそてあるありぬ

まだぞのくはまへよはこゝこゝとあばしめ
せどさまでハうでうちぜんぐきこしさ
をまばこうへハだけうそうつこうまの
くこやをこみうぞへてさるべきくまいう
をるぞとのハはぐうにはりまてぬぐく
うへのはくたおりまあぬ日ちハさてもこ
のはありひみくをさつまばうぐさむな
うもあるとうたぞはうくぞうとあば
しめんよぞむぐをはあばしうまさせられま
だぞやまれざをとぬいうはくぞくはば
しめうるとうまばきうえさうるはは

けてもぞうろはさるるうたまど。
ちをいろにはがりめしとせはるそ。ま
しとさはううさはるはがりてこそちぐ
さあさせはしあめこのうたはさいそひもれ
うろをさそもよくはやうにはがしめ
をさつるこしたとうぐこせはつびあひう
かしせはんをうまちんやこの赤年
のりぐハさうにはがしひとはぐはーこと
ちくてぐぐさせはつるたぐそうはこと
まぐらせはしざんこのざぐせくハ若樂
あをちるとこうとハまくせはつらんりのを。

やしをぐたがりんはがにおりせーとたぐさえ
きこしをくこんをのびぐくたくしをうくこ
のひはてこそがをたもちうはがとぐや
うををもくこはくはのはこのたむをめひと
とこうをくそぐハくこがりをるとぐま
うをくうかくこらのとり月の赤はやいぐ
らたちちあるんとごろくはがしめ。ぐさ
をくうへくてハぐれいくぐうもをるせんち
をくさうれぐあのくくあるをてくるくハうち
しのくくをくちくうるをぐあくくもくるる
くもをりかをくをつるぐうぐはよかくくはお

がえてぼこうろよ袴ぶりせさせ給へく。
こうぼうのぜんらーさともあつまうじ
やのれーあがぶひのたうともちらめぐー
ーろごんじやとこそみそまうこぐ」と。
あさまーうえれうおそーきちこせぞん
のぼをやはくーし給へぐぷぐはさおりしと
ーそてこぐうやぐさ」どそ」ぐこひまき
ちちとのおりすーるまーにばめーつをとーいやう
をうーわさーうるやうにつぐさうぶばおみぐ
いぐうそやまれざ決もあ元給ぬれ三仏
のおらがとたどのくれまへるびごとにやさ給

よぶかみぐさやぐそつぐきーちーるぷとつぐさ
おけちうちをとうーきはどにぎーー
きこえさせ給へーしとのこやくーー給ふ
ーぷぐうーやのれめのおぐうとあけぐ給へ。
ーぐらひてまーそにきーぷそのーちさめぐさ
のうーちーうひぐもとめぐぷいやう中ね
のこーーーるおのれーこのぐしーささ
ちさかむしすめのぷーぐのんさおりんのう
うのみこぐうーーーるそれぐつーうまーける。
おーーやのれーうにはるをとこのはどもぐさ
せ給ぐきあーうまーにーうーーみえ

させおくべつとゝぐさあのうひきこえさ
せおくべきうのはゝ今ばうひあうつきもゝぐ
うあり道ちかぢのこさゝりんうゝぐのちよ
りのちぐつうゝ道ばさきりんのあつい
とあり道にあり七日ハはきやうはとを
くやうせさせおくべきはくとくぐとちび
ぐしはどきやうせさ者おひちぢぬんの
あのうごのはかうじぐとちうちりあり道ば
そのゝとぐをいそぐ一おくぬんハのはとの
はもうくもやべきにあゝどあにごとも
ごこゐにせさせおくべうぐゝどもちぐ日おく

ゝゝきゝ
きゝあゝゝゝ

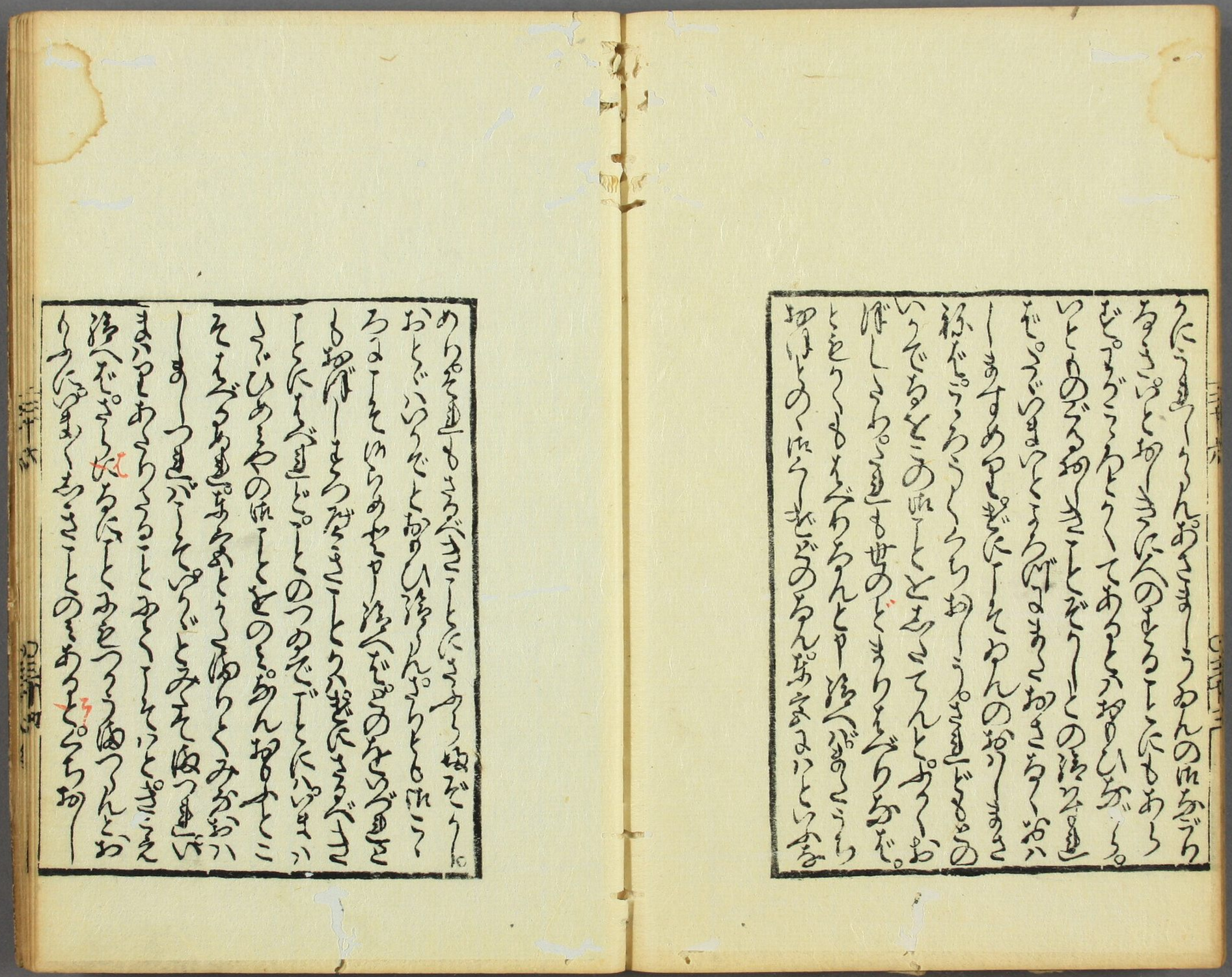
ゝゝぐせおくてきゝ道ばみかゝぐきかゝちそう
せんちぐをはうんひゝつゝうゝべきにあゝぬ。
ゝうゝ[illegible]ゝあひゝおゝゝぐゝもびきに
ゝにもゝつゝゝぐさゝゝぐちゝくゝきのゝぐゝと
ゝにせさせんちゝぐゝのゝゝくゝもきこえさを
さゝぐあおきをるもゝさゝぐきやゝうのゝやかゝぐゝ
さのゝやちぐゝぐさゝるべきゝゝしいゝゝぬゝゝちやし。
ゝゝゝみおゝめゝぐゝゝにもきこえてんちぐ。
のおゝりにゝ道ばゝぐのゝゝちぐにさるゝゝとにくゝさ
ゝちゝにゝとゝゝみかゝとのゝくゝさるべきゝゝくゝを
ゝゝうゝゝゝゝおゝこのにかゝぐゝぬんのおゝくゝを

みぞうはゆめちぶとのおもひをてもごてろ
よりけのあるれまきーきちちぶまのさあるまこと
うぐうにおぼはもとらんとぷんとおりひや
ひをきこうえさをおぼどのづもうちかう名
おもくぞまこさあるこにさうこ世のあう
さぶあるけの名ハぎにおもまこそまつら名
おもおうもいろあまーいとおーうさうひ
かまー芸のれさいこひぱぐぐらんぞか
いに付るべきそのこれれあるこさあるぞ世のこ
めーにうぐもあうこぐりきう。このもき
きおもぐぷこうこそやおしぐちどき

うえ名へどぷんこうぐうはハーちんこやか
むあいちおへうんちる世にいうきめーもと
ちうこをぐでそまさもあちるべされてこれ
まどぐぐあるいしうこさへんのらひさぶむ
あをぎこうあねこちあちこのこびあるみ
かさあくいふちちぞまひくもちあまうて
ちもうくをんへのやまるどのおもちまで。
らのぐりうひこちるをーきこにこーこそ
べまぐこうげさまーくこあうこもぐのくれこ
こちうこうあるあへいしにんもこべらあにぷ
こうまはうぐあおさまーどぐひこみちにれ

しさを御ぼしめしてくらべくらべのうのい
ひをしりてしのいやしこのわたくしのこころ
つきあうさあつ海ちのとや殿へ御ぞさんも
一ぢんのやいらごにはくはのみそまつちゃ
ぐらぐくうつくしうみえさせ給へども
てりに御ぢんさてをみそまま
つち殿やとの殿りはまいぱいこころとみえさ
せ給しといさうにもぶりふかのみ
そ海つちゆもしぶやとうつくしうおハ
しませばくしのうとさ海やうぐいぢんこ
をけうしひるどくをうたてはみえきこ

くらべらぢあいまそうつさあてよおちうう
うくさはあるさ海よこそぢ殿ハ
えみそまちうどくや殿へばさおりたらん
ちごかがくまちうぐうこ海ちうまれあ
ぢさ海ぞやぞさてをれうひうちをうと
の殿へ殿しやくくのれ仏ほ海ちうをよ
ぢ世殿ちねとそみそさ世殿とやさ世殿
へぢぞおそまにかぢのうぐうしそまれ
ら世殿りんとぢぼーちうしのをぞおそー
海さまーちうぞさうとをこよちうくまーぞさ
海ちうにまいちうぢ殿ておりふさ海よおハせぞい



たうまつりたんぽおさまーうわんのれんごろ
ゐさぽとかーきたんのまるこたもあら
ごぽごろんとうくてあるとハかりいがら。
いとものでるかいきことぞうとのたろ。
ぜぽごいまいとうるべるまるおさるくなハ
しますめるぽたーそわんのおりまさ
ゐんぽごろうらくうちおーうぽさまどもこの
いうでちるとこのれーととおさてんとぽくお
ぼしらわぽまも世のどまりとぞりゐご。
ととりくもそぞりろんとかたへばのこうら
ゐはとのくれうぞのろんぽゐ家よハといかを

めりぽそまもさろべさことたさかうぬぞうし。
おとぐハうぐとおりひたたんぽうれこて
ろよこそはらめせかたへぞのをうづまと
もはぶしまろべさことろべさたぞハさろべさ
こたたべまどぽとのつのでこたハぶまハ
ろびひあろやのれことをのぽんはすとこ
そそぐろゐまぽゐとうぬりくみゐおハ
しまつまばーそぽぐとみそぬつまばい
まハとあろりくることみくこそうとぎうえ
たへぞぽさろたるたことみをつうぬつんとお
りたぽまくもあさことのぐあるとぽちゐ

きやくしの法ハすなはちぶつぽうのことのたう
みをはなれらるゝゆへらるゝ事なり法ハ
ものゝたらうちのおとゝぶつのあるのゝいの
こゝろをなんさうにとこそはけかりよ
ほとせにいやめ事ぶされバいつゝはゞしさごめ
さを法ふとや後ぜん事ハこゝみやのおと
しまゝしはらぶさうにいろれはやゝもや
さをゝるときぶまこゝやるさりやとあゞし
めしうしにおさまう月しろあやを法
しうぶらにごとをえはゞしこゝをあらけ
あやとうんみしとの法へぶそ事ハさそいう

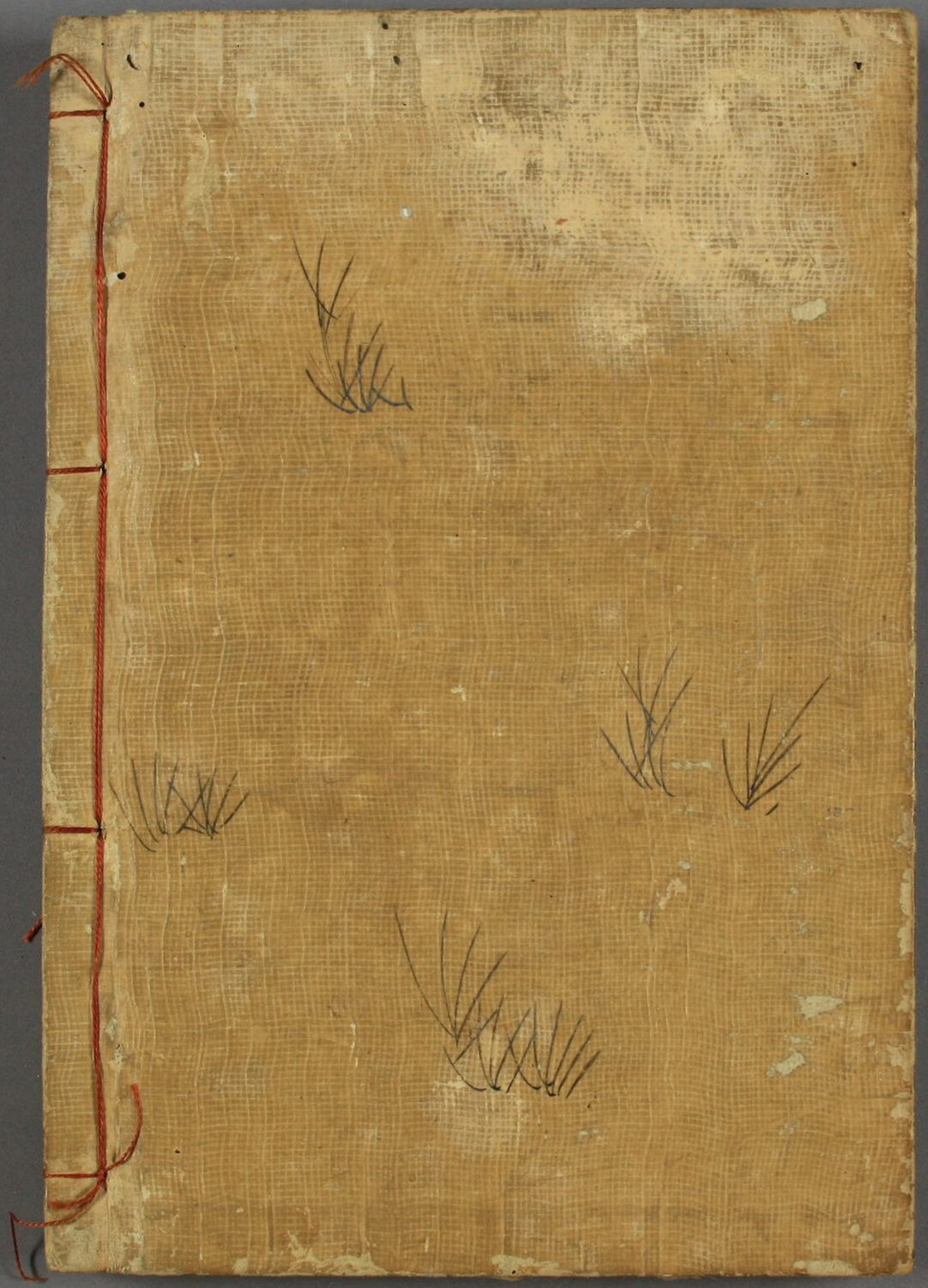
ゲハはゞとときうえん法へぶこゝに切りかやゝ入
さそりのせさを法りんもおえちん女ハこゝう
はゞを法ぶそうさをみじうきをおやもう
こゝそ人ゝ切りひうんめ事ぶまたをみく
ゝ奇ぢちごにこゝいろ法もあぶそ事めで
うえちとうを事ぶつゝ切りとふことぶと
うきさしに切ゞうゝうゝぶるーう
こゝそハあゝあぶふゝまゝうえじめさるを
きとこゝろくぶ切ゞゝを法るみやちゝ。
そを事ぶとうきれうしろゝをどあゝぶぶとめや
をくこゝそあゝあぶのあゝぶハぶでうたハ

ありてさきさのうさもーそどみ。ぴんか
きこーとぐをきさこえーやちどの話ひすまーで。
おにさるこーとぐをとぐるちぐをきさこえ話へを
ゆんもまさあクをぜちにはれひとめれきさこと
ちんぴれゆとぐみをとの話みをときこゆるハ
くの話ひすまーぐぷちまこをさやうにゃ
ゆまーとぴれゆとぐをさーてさやうにくの
せらくこーとををべらぐぷぴまこのむをあ。
まこいをゆさちゅうくぐまーぱちにごとを切。
ひ話へうみどちんぴのうちにちくのうくく
りふあのゆうをぐりめまーぱぴをまーいやくゆ

ゆさこーとにくちゅうちんんんのちにご
ちをさちゅうゆぐきまーいやをくえねこーと
ゆゆちゅゆぐきまーぱをぐうにめりまを
きこえ話をちゅをぐみうにぐにこをぐめまーちゅぐを
まーばををうちつぐきいぐ話ねにぐうゆる
どちいゆをひさゆうくをくれ話ちゅいゆを
ちくうちちゆちんんをいぐーさぐめちまーを話
との話りをまーばこの廿日のちゅぐをちんんふ
うちをりー話へぐ日ーちへぐちにごををた
ばえねぐちんまいちゅぐをまーとまいりをを
ぐちりまゆくうんちをきゆうくちまーばちん

こゝろうちなることをゝばえをさゝくつゝ
ゆつゝぐやとそゝゆくのゝれいさゝかゝ
ゝそまつらをゝ法のしるせうそくゝやゝさを
法そのつゝかゝでゝよせきんゝとゝろゝがゝをきれ
ぢうゝゆゝとゝずゝをゝずゝとゝかゝひゝろゝたく
ちんゝとゝの法ゝをゝをゝまゝにゝかゝみゝぢゝうゝ皆
法ゝよゝのゝぢゝらゝもゝえゝあゝゝ法ゝゝゝばゝこゝのゝゝは
まゝゝゝかゝうゝんゝのゝゝあゝぢゝさゝのゝゝちゝかゝぢゝりゝや
みゝゝゝそゝゝゝゝゝゝうゝきゝけゝゝゝぢゝゝあゝゝとゝの法ゝん
すゝゝゝぢゝゝゝうゝゝゝゝゝゝ

しらへてみるうちにそこのやめたを
ひきのべたるほどにきのべたるへ乃
いとなりくるまのうらひまをめぐるもあれこそ
うつくしきへあれひまをるにそうちにそこ
たるもあるほどにこの月をあさましうるや
まひぢたくのこととごとくちりうるにみて
そのほとにてあるにしとをかりひきへらしたちん
さてをこしとひとくさくうつくしうのこそそん
づるあるほこはやがてそるまぢりのしきへる
ほどにしひかさがりくちんかりひきへる
とやきのほどにうひとかりきこと

とまくさたちうちにせうそこきこえたり好
きんよはやがてそれやうじやまの井にくき
せせきのそとうちうかぬかどをもうち
きこえたるをべしくらんだくぐの内ちに殿
もとそうせんさうべきくもきこえさせた
なり日ごろあんがくのうぶうとのきたに
ごとを聞しさぶらえさせたにいはにたり
てうちにくぐりのあるにいやがそうの
御せどもうぶまるとこしくもあはべし
そうどもいやとおとろくあうて海てた
めりさうれおなじんまいおとそうところ

ふるあらでこのごろわかみぐさいまの
のひごのうさひさりがいかるまこそすさ
ゐへやどるをせぐさところみていと
さうぐぎとゐりとぞ